

浅井北だより



☆よく考え自ら学ぶ子 きまり正しく心豊かな子 健康でたくましい子☆

令和3年 7月号

☆いのちを感じて☆

日中は気温が上がり、夏の訪れを感じる今日この頃です。登校した1年生が、育てている朝顔の水やりをする様子が1日の始まりを告げる風景となっています。4年生のバケツ稲は、丈を伸ばし風に揺れる様子が涼やかです。2年生はミニトマトを育てながら気づいた成長の様子を、生き生きとした絵画で表現しました。3年生はチョウの幼虫を育て、名前をつけ、毎朝えさをやりながら成長の様子を見守り、チョウに羽化したときは本当に嬉しそうでした。5年生は朝顔やインゲン、6年生はジャガイモ、ホウセンカなどを育てており、当番で水やりなどの世話をしています。ひまわり学級は、収穫をしたたまねぎを販売しました。仕分けや袋詰めなどの準備作業から熱心に取り組み、一人一人が上手に店員さんの役割を果たすことができました。



また、キャッツハンドの皆さんが花壇や校庭に花を植え、世話をしてくださっています。季節ごとに咲く花々に子どもたちが目をとめ、興味深く見ている姿をほほえましく感じ、ボランティアの皆さんが、潤いある浅井北にしてくださっていることをありがたく思います。



手で触れるなど五感を通して感じる経験が限られている中、植物や生き物と直接触れ合うことは情緒の安定につながると考えます。子どもたちが身の回りの小さな命に目を留め、成長に気づき、大切に育てていくことで、生きていることや成長のすばらしさを感じてほしいと思います。

☆子どものやる気と自信を育てるために☆

愛知県総合教育センターの先生を講師として、子どもたちへの適切な支援のあり方について講義をしていただきました。「発達障害についての正しい理解」「気になる行動への理解」「子どもとのかわり方について」の3つの視点から、演習も行いながら理解を深めました。ご家庭でも参考になる内容がありましたので、ご紹介させていただきます。

① 人への見方を少し変えてみる【リフレーミングの手法から】

欠点（短所）と感じられる要素の見方を変えてみる⇒良さ（長所）になる

（例）「落ち着きがない」人⇒「フットワークが軽い・活発な」人

「口下手な」人⇒「慎重な・話をよく聞く」人 など

② 褒め上手になるためのポイント

「小さな成果でも褒める」「プロセスや当たり前を褒める」「好ましい行動に注目して褒める」



講義や演習を通して、見方を変えることで自分自身を肯定でき、人から認められることで前向きな気持ちになれることを実感できました。目の前の子どもに対しても、見方を変えてとらえてみることや、理解を広げてその子の良さを見つけ、認めることが大切であると感じました。子どもの困り感に気づき、自信とやる気を育てる声かけや支援ができるような力を高めていきたいと思います。



☆浅井北小ウェブサイトはこちら⇒